

あのマチ  
このムラ  
・地域おこし活躍中

No46

## 沼田町の事例

— 北空知を代表する農業地帯で新たな地域発展への挑戦 —

### 沼田町の地域概要と

#### 沿革

札幌から二七五号線を車で約二時間北へ走ると雨竜町、北竜町そして次に見えてくるのがいまや米産地「雪中米」とほたるの里で知られ、人口約五、〇〇〇人の沼田町。丘陵と田園が広がる自然豊かな地域となっている。その先は多度志町、幌加内町、

旭川市へと続いている。

北海道のほぼ中央、空知支庁管内の北西部に位置し、北東地帯は深川市へ、南東は北空知を貫流する雨竜川を境いに秩父別町に、北西部は小平町および留萌市に接している。

南部の平坦部は広大な石狩平野の北端の一部で妹背牛町に接し肥沃な水田地帯となっており、留萌線に沿った市街地、農耕地はこの平坦部を流れる雨竜川や

山峡を流れる幌新太刀別川流域に沿って南に開け、西側は牧場、畑作地帯で、他は浅野・昭和炭鉱があつた山岳地帯で占められている。

広さは東西一八km、南北二六kmで面積は二八七km<sup>2</sup>で、空知支庁管内市町村中第七位の広さであるが、山林や河川が多い関係から農耕地の割合は低い。

気候は、春期より初夏にかけてやや乾燥し、夏季は温暖で、晩

夏からトンボが飛び交う秋は比較的雨が多く、冬は湿潤寒冷の気候である。降雪量は、積雪深は一五〇cm〜二〇〇cm、初雪は十月末ごろから終雪は三月下旬。

冬期は本道有数の積雪地帯で、一晩で雪が積もり二階の窓から出かけるようなときもあるらしい。今その雪を利用した街づくりが行われようとしている。

町花はポピュラーでどこの家の庭に咲く、素朴で又はなやか



沼田町市街

な親しみの持てる花で「ツツジ」、町木は風雪に耐え常緑の開拓の昔のばせる北海道の代表的な樹木「イチイ」となっている。

土壌は、雨竜川沿いでは有機物五〇%以上含む泥炭土、肥沃な沖積層土壌、高台にある洪積層土壌となっている。米に対する渴望があつたためか、沼田町では早くから土地改良が行われてきた。開拓当時は、掠奪的粗放作、無肥料でかつ連作により地力は衰えはじめ、酸性化が進行して生産性は著しく低下していた。大正三年に現在の「沼田町土地改良区」につながる「上北竜土巧組合」が設立され、早くから灌漑、用水路工事、ダム工事等がおこなわれ、造田計画が進み近年まで農業地帯の基盤づくりがおこなわれてきた。農業の基本は土づくりといわれ、沼田町での良質・良食味農産物

を産み出している要因と考えられる。

町の名称は、北海道では通常アイヌ語が多いが、沼田町の開拓の祖である沼田喜三郎氏の名前から来ている。大正十三年に群馬県の沼田市に配慮して北海道の石狩国に属する沼田として「石狩沼田」に改称している。沼田町に属している北竜地区は「沼田北竜」となっている。

### 沼田町の沿革

沼田町の開拓は明治二六年、富山県人沼田喜三郎氏が設立した開墾委託会社の手で進められた。雨竜本願寺農場として東本願寺の法主であつた大谷光瑩伯爵の所有地三、九〇〇町歩を借受け、翌明治二七年に喜三郎の郷里富山県西砺波郡から一八戸の移住を図り仁多志別（現在の北竜市街）に鋤を打ち下ろした



すずらんの明日萌駅(恵比島駅)

のが始まりといわれている。

した後、ここに入植させた。

北空知の近隣開拓ではまず明治二六年に妹背牛、秩父別は明治二八年に四〇〇人の屯田兵およびその家族が開拓に入っている。

明治二九年には富山県越中の入植者が、翌年には愛媛県伊予国東部団体、翌々年には北炭が山林農耕地を開拓、他地区では転住屯田兵が入った。その後北

当時の入植者達は、まず小樽港に入り、汽車で北上し空知太(現在の滝川付近)に着いて、そこから徒歩であったという。

炭の募集移民等により集団での移住と続き、斧の響きがうつつうとした原始林にこまりました。当時は熊に怯えながらの鋤と鎌だけが頼りの原始的な作業であつたという。入植者の常食は、黍、とうもろこし、馬鈴しょ、かぼちゃ等でそれらを主食とし、塩や味噌で味付けして副食として

明治二八年から明治三〇年にかけて約六〇〇戸の小作人を富山、石川県下の真言宗信徒より募集し、小屋掛け料一〇円のほか開墾料などを支給、三ヶ年の鋤下年期(三年後は大豆・小豆・麦の三種を平均し、反当り三斗を年貢として雑穀で納付)の条件で開墾にあたらせた。草原地は会社が馬を導入し、馬耕で開墾

掘建て小屋であつた。開墾後の部落一帯はもともと低地のうえひどい湿地帯であつた。沼田町は河川が多く、雨竜川は、その源流を幌加内とし、一旦朱鞠内湖に貯水され、それか

は、その源流を幌加内とし、一旦朱鞠内湖に貯水され、それか

は、その源流を幌加内とし、一旦朱鞠内湖に貯水され、それか



ポロピリ湖の沼田ダム

ら鷹泊ダムを経て沼田町南部を  
とおり雨竜町に至り石狩川と合  
流する。

北東にある川は無名山の溪流  
を源として自衛隊の弾薬庫のあ  
る更新地区に流れ沼田の雨竜川  
に注いでいる。以前はこれらの  
川を利用した「波止場」があつ  
たという。これらの河川地を先  
人達が次々に畑地に替えること  
に努め、ついには稲作地帯へと  
変貌を上げていく。手塩に掛け  
先祖の残した貴重な土地にかけ  
る想いはことのほか他地域より  
強く残っているように感じる。

当時、沼田町は雨竜村に属し  
ていたが、明治三二年に雨竜村  
より北竜村が分村、更に大正三  
年北竜村から上北竜村として分  
村し戸長役場が設置され、ここ  
に初めて行政的に独立した沼田  
村（現在の沼田北竜）の誕生と  
なった。

明治四三年に深川から留萌線

上に沼田駅、恵比島駅ができた。  
沼田にはかつて炭鉱があり、駅  
付近に倉庫群が立ち並び、石炭  
や農産物を運ぶ重要な駅として  
活躍した時期があつた。

NHKのドラマ「すずらん」  
で有名となつたクラウス十五号  
蒸気機関車も走つたという沼田  
には石炭の歴史もあつた。昭和  
五年、浅野・昭和両炭鉱の本格  
的操業と留萌鉄道の開通により、  
石炭産業は一躍沼田町の主要産  
業となり、人口は急激に膨張し、  
浅野・昭和地区は著しく繁栄す  
ることになった。

昭和三〇年には実一九、三  
六二人の人口を有し、町はいろ  
いろな店が建ち並び繁栄してい  
たがエネルギー供給の構造変化  
により石炭から石油へと移行し、  
合理化の波となつて、昭和四三  
年雨竜炭鉱が閉山、翌四四年に  
は太刀別炭鉱と昭和炭鉱が閉山  
し、人口は激減した。石炭産業



沼田町の米穀低温貯留乾燥調整施設（雪中米施設）

の壊滅は多数の離職者を生み出し町民生活に深い傷跡を残す結果となった。その後沼田は稲作・畑作を中心とした産業構造のマチとなった。

## 稲作にかける歴史

空知管内の稲作のはじまりは明治十七年といわれている。月形村がその試作の第一歩とされ、稲作の最初の収穫は、長沼村の入植者によって明治二三、二四年と二畝の水田を耕作し成功したことによる。その後稲作は急速に広がり沼田町でもやや遅れ明治二八年には水稻の試作が行われている。その品種は赤毛稲が多かった。大正元年は反当り約三俵程度だったとされる。

変のときは、米穀自治管理法、米穀配給統制法、米穀管理規則等に関する法律が制定された。農家ですら白米が自由に食べられない生活を送っていたようだ。昭和十七年には食糧管理法、生産統制令により闇取引が多くなった。

戦後は食糧不足に対処するため、国は食糧管理法を強化した。沼田町では、地域を守るため、農業者の生活安定のために生産者米価要求を毎年行ってきたが、昭和四九年の米価要求内容をみてみると見ると「生産過剰だという理由で生産調整が強行され、買い入れ制限が実施されている。農業者は低米価により、稲作を主体とする農家経済に極めて大きな犠牲と負担を強いられ、営農意欲の減退や農業存亡の危機に直面し再生産がかなえられない状況にある。」と要求を出している。一俵あたり、一



沼田町の雪中米商品

六、七〇四円を求めていた。この要求米価とくらべて現在の価格がいかに低い水準にあるのか察しがつく。水に値段がつく現在にあって、生産者にこれ以上の生産コストを下げることはもう限界にきているのではないだろうか。

また、水田の耕地面積でみてみると昭和四三年に三、〇〇〇畝、昭和四五年の生産調整のため昭和四七年には五六%も休耕となっている。昭和五年の水田総合利用対策期を第一次減反といい、水田利用再編対策期を第二次減反といい、その減反率は全国が一三・四%（北海道で三四・九%）昭和五年一八・六%（道が四三・六%）という重い傾斜配分がされている。北海道は全国から見ても「まずい米」というレッテルがあるという理由からであった。このことは北海道、沼田町にも突きつけ

られた問題であり、今後どこまで生産を維持し米地帯を守れるかが大きな課題となっている。

現在は、消費者を意識した生産をしなければならず、「おいしい米」、安全安心、生産履歴の情報提供等生産者が自信をもつて市場に提供しなければならぬこと、また平成十九年より実施される担い手に重点を置く「品目横断的経営安定対策」に取り組まなければ、たいへんな時代に直面している。

沼田町では小集団化「沼田方式」といわれるミニライスセンター、トラクター、田植え機コンバインなどの機械や施設を徹底した共同作業で有効に活用、過剰投資を抑えてきた。また良食味米の生産に力を注ぎ、平成八年に沼田という雪に恵まれた地域性を発揮し、「スノーキールライスフアクトリー」を建設し「雪中米」という商品名で道



北いぶき農業協同組合(ちっふべつ)

外はもとより、台湾まで販売を行っている。雪冷熱を利用して付加価値をつけた米はかなり評判が高い。

その利雪型農業方式(粃バラ半乾貯留二段乾燥方式)は「雪中じゃが」というアイデア商品にむすびびついている。その他雪中商品として、お酒、味噌、そば、うどんへと拡大している。ぜひ試食してみたい。

### 沼田町農協の歴史及び現状と課題

にと地域の特徴を生かした体制をとっている。

それ以前の沼田町農協(昭和二三年設立)の歴史をたどると、前身は産業組合(沼田信用販売購買利用組合)や沼田村農会で、農業の施設や栽培技術面で支えていた。農協は、設立二年目に赤字となったためか財務基盤を強化するとともに、米の増産と農業倉庫建設に力を注いでいる。

また利用事業としての利用施設設置にも強力を入れ、正油工場(昭和二八年まで)、羊毛工場(昭和二八年まで)、豆腐工場(昭和二八年まで)があった。

平成十五年二月に道内有数の良質米生産地である秩父別、妹背牛、沼田が合併し北いぶき農協が誕生した。他農協と同様に事業本部制をとっているが、本部をすべて本所に集中させず、金融共済事業本部と管理本部は秩父別、営農販売事業本部は沼田、購買施設事業本部を妹背牛を建設し、綿羊三〇〇〜三五〇

頭の種付けや飼育頭数三、〇〇  
 ○頭に応えている。また煉瓦工  
 場や冠婚葬祭場等も運営してい  
 た。農協としては、産業組合当  
 時から、組合運動とともに組合  
 員のニーズに答えありとあらゆる  
 ものに挑戦してきたように感  
 ずる。これらのことは、まさに  
 総合農協のモデルとして農業者  
 のみならず地域住民にもあらゆる  
 貢献を果たしてきたといえよ  
 う。

現在では、米にこだわるばかりでなく、花卉、メロンを中心とした高収益作物と馬鈴しょ、かぼちゃ、畜産等にも着目し生産を拡大しようとしている。

沼田町には農産物を生かした独自の農産加工場があり、沼田町で採れる、かぼちゃ、トマト、山菜等を加工し缶詰やドリンクを販売し道外にも販売を伸ばしている。特に今年度より病害虫と闘う等苦勞の未成功し、有機

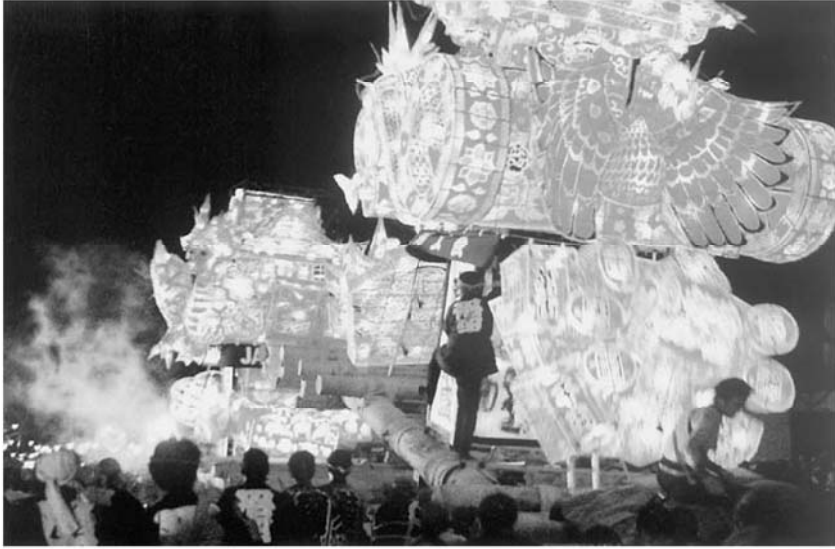
作目別生産面積の状況

(単位: ㊦)

区 分	平成15年度				平成17年度				
	妹背牛	秩父別	沼 田	合 計	妹背牛	秩父別	沼 田	合 計	
水 稲	2,228	2,085	2,315	6,628	2,349	2,133	2,519	7,001	
農 産	小 麦	623	235	305	1,172	514	150	200	864
	大 豆	82	67	229	378	88	56	179	323
	小 豆	47	20	61	128	42	19	58	119
	そ ば	6	130	498	634	33	240	517	790
	甜 菜			72	72			68	68
	飼 料 作 物	53	5	27	85	22	5	27	54
	その他(含地力)		110	100	210	24	54	37	115
計	820	567	1,292	2,679	723	524	1,086	2,333	
花 卉 ・ 青 果 蔬 菜	馬 鈴 薯			11.8	12			9.6	10
	南 瓜	0.1	3.4	10.6	14		3.1	9.0	12
	花 卉	27.3	12.7	15.5	56	28.5	13.0	20.3	62
	ブロッコリー		32.1	8.7	41		32.2	11.1	43
	メ ロ ン	0.2	1.2	10.1	12	0.5	0.5	6.0	7
	キ ャ ベ ツ			3.6	4			1.9	2
	き ゆ う り	0.3	0.6	0.1	1				
	スイートコーン	2.4		1.2	4			1.7	2
	ト マ ト	0.1	4.6	1.7	6				
	シ シ ト ウ	0.6			1				
その他(含地力)	0.6	1.4	1.7	4	1.1	1.7	10.9	14	
計	31.6	56.0	65.0	153	30.1	50.5	70.5	151.0	
合 計	3,922	3,331	5,029	12,294	3,855	3,282	4,832	11,970	

資料: 沼田町統計資料より





沼田町の夜高あんどん祭り

加工食品生産認定の「有機完熟」(商品名)トマトジュースを発売する。従来の「北ほたる」トマトジュースと共に町の有名ブランド品となるに違いない。八〇〇mlの瓶入りで一、二六〇円です。ぜひ試飲してみてください。お勧めします!!!

なお、農協として現在おかれている現状と課題を整理すると次のようになっていく。

① 農業を取り巻く環境対策として、WTO・FTA対応、国内の「産地づくり対策」等の対応、

② 水稻基幹農業の課題として、米需要の減少と低米価対策、食味向上対策等

③ 農業者の高齢化と担い手対策として、新規就農者受け皿づくり、農地流動化対策等

④ 品目横断的安定対策および農地・水・環境保全対策と

して、法人化や営農集落対応、農地集積対応、環境保全対策等

農協の事業としてやはり米生産が主体となろうが、沼田の「雪中米」、秩父別の「今摺りいなほの鐘」、妹背牛の「北彩香」休眠貯蔵米が、さらなる食味の向上や販売戦略により、「きたそらちブランド米」として、今後どこまで消費者へ届けられるのが勝負どころである。総合力を生かした活躍に期待したい。

おわりに

サツサドツコイサノサ、ヨイヤサ！ヨイヤサ！と「夜高あんどん」にまたがり、祭り囃子や太鼓とともに、大声で夜空にかけ声が鳴り響く。一〇基ほどのあんどんが町狭しと走りまわ

る。優雅で勇壯で大迫力である。人口五、〇〇〇人ほどの町が観客で三万人に膨れあがる。この祭りは八雲、斜里町と並んで「北海道あんどん三大祭り」と呼ばれ、今年是小矢部市のあんどんも特別参加し、それらが集まり開始三〇回を祝し合同で開催された。

「夜高あんどん祭り」は、開拓の祖「沼田喜三郎」の出身地

である富山県小矢部市より昭和五二年に伝承され稲作豊年、町繁盛を祈る祭りとして今に続いている。それ以前には開拓の鍬を振るつた人々が五穀豊穰、悪魔退散、部落安全を願う本願寺越中獅子舞が舞う秋祭りがあつた。

「あんどん」は、保育園児からお年寄りまでの町民参加者の手造りとなっており、竹細工で龍や御所車などを型どり、電球を仕込んで上を貼り、ロウ引き

をして五色で彩色される。山車、傘鉾、連樂台で組み立てられ、高さ七m、長さ一二m、重さ五トンとなっており、それを黒装束の多数の若者が引き子となつて町中を引き回し最後にはぶつけ合うという迫力満点の祭りである。この祭りは若者がいなくてはなりたないと思われ、いつまでも続けてもらいたい祭りである。

近年、北海道全体の町並みは過疎化とともに多少寂しくなつ

ている。沼田町もしかりである。以前は、お菓子屋、洋服屋、金物店、馬具屋、酒屋、食堂等こ

れ狭しと街並みが埋まっていた。今では商店にかわりコンビニである。一抹の寂しさを覚える。時の流れとはいえ、「国取れて山河あり」という詩があるが、今風にいえば「国離れて山河あり」であろうか。居住人口が都市部に偏りすぎであるが、その

調整を図り、何とかふるさとを守る共栄が図れないものだろうかと考えてしまう。

だが、沼田には町や農協、農事組合法人、青年部、女性部、土地改良区、普及センター、北

空知広域連等農業関係機関や団体等が若者の残れる街づくりのため連携して真剣に取組んでいる人達がいる。そういう人達のため、私達も支援できることがあれば支援をしていきたい。北いぶき農協の岩越本部長は「地域の各関係機関には優秀な人材がおり、それらの方々と連携を図り、地域発展のため生産知識の共有や情報交換を図り前向きに取組んでいくことが重要だ。」と述べている。

(社)北海道地域農業研究所  
特別研究員 中山忠彦



# 地域農研 農業総合研修会のお知らせ

当研究所主催「平成18年度農業総合研修会」を下記の通り開催しますので、ご案内申し上げます。

## 記

1. 開催日時 平成18年11月9日(木)  
14時～16時30分
2. 開催場所 共済サロン「芙蓉の間」  
札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル8階
3. 研修会内容 講演テーマ「農業・農協をめぐる最近の情勢と  
独占禁止法適用問題」
4. 講師 東京農工大学名誉教授 梶井功氏

